

## 2010 年度の取り組み

**(1)健康を維持するための活動-保健医療支援- ●300 家族にマラリア予防の蚊帳を届けることができました！**

「(1)健康を維持するための活動」として、2009 年度は、元子ども兵及び紛争被害者のうち、5 歳未満の子どもを抱えている家庭(主に性的暴力を受けた女性)を優先的に 300 家族へ蚊帳の配布を行いました。

そして、2010 年度は、診療所と協力して、彼ら彼女らへのマラリア予防の啓発ワークショップを開催しました。



マラリア予防の蚊帳配布の様子

マラリア予防の蚊帳を受け取った子どもたち

**(2)自給食料を確保するための活動-食料の安全保障支援- ●自給食料を確保することが出来ました！**

「(2)自給食料を確保するための活動」として、2009 年度は対象地域 12 ヶ村の相互扶助グループが農作物の栽培に取り組み、すべてのグループが、自給に必要な食料を生産することができました。

同時に、4 ヶ村のグループ(4 グループ)がそれぞれの村に母体池で繁殖した稚魚を放流するためのため池を完成させました。

ため池は大型の機械などは使用せず、元子ども兵らがショベルなど簡易用具を用いて整備しました。

## (2)-1. 農民グループの活動

昨年に続いて、2010 年度は、12 グループが、前回の収穫物(キャッサバ、サツマイモ、ジャガイモ、豆、マツケ、ヤム芋、メイズ、キャベツ)から種子を確保して、新たに栽培を始めました。

うち 9 グループは、今年も順調に栽培が進んでいます。また、各グループのメンバーが協力して個人の土地の開墾、共同農地の開墾、栽培を行っています。今後は、各グループが共同農地を開墾し、そこで収穫された農作物の半分を市場で販売し、現金収入を得て、各グループが共同貯蓄をするようにします。そして、この貯蓄を利用して、グループのメンバーが病気や怪我の治療など現金が必要な時に使う保健の仕組みを作ります。

また、グループ間で作業が早く終わったグループが他のグループを支援するなどのグループ間での相互扶助活動も活発に行われています。

残りの 3 グループのメンバーは、治安悪化のため農地を耕すことが困難になり、2010 年 9 月に一時的に避難せざるを得なくなりましたが、避難先の土地でそのグループメンバーの協力を得て、食糧生産を行っています。

さらに、避難させられた村の住民及び避難先となった村の住民の中から、農機具が不足または消耗しているメンバーに対して、97 個の農機具部品(クワの刃)を提供しました。

また、同時に、キャッサバ栽培用の 2500 本の苗木(種)を購入し、9 月に他団体の農業訓練インストラクターの指導のもと、共同農地に植え付けを行いました。このキャッサバは 2011 年の 4 月頃を目処に収穫、販売をして現金化し、他の活動費用に充てる予定です。

さらに、種子となる枝部分は、他のグループにも配布して栽培を拡大させていきます。



キャッサバの苗木を受け取る女性グループ



土地の開墾の様子



農機具を配布しました



キャッサバの苗木を植える様子



配布した農機具



クワの刃を受け取るグループの女性

## (2)-2. 魚の養殖

2009 年度に放流した稚魚が無事に成長しました。

また昨年、繁殖した稚魚を放流するために作成しておいた 4 つのため池に新たに稚魚を放流する準備をしています。

## (3)収入源を確保するための活動-収入向上支援- ●元子ども兵に溶接訓練を実施しました。

2010 年度は、「(3)収入源を確保するための活動」として、元子ども兵に対して、溶接訓練を実施しました。

訓練を受けた 6 人が継続して後半の実地訓練(6 ヶ月)を行っていく予定で、春にはワークショップも開設します。

そして、教会の建設や、地域の仕事を受注しながら、後半の実地訓練期間に、小規模ビジネスの訓練を並行して行います。溶接技術はカロンゲ(支援実施地域)で初めての技術であり、溶接所は存在しません。

そのため、仕事のニーズもあり、遠くまで溶接のために行かなくてはならない住民にとっても大変便利でニーズの高い技術です。



溶接訓練の様子\_1



溶接訓練の様子\_2



溶接訓練の様子\_3



溶接器具を手に記念撮影

**(4)心理社会的な安定を促す活動-心理社会支援- ●個別カウンセリングが始まりました！**

2009 年度、「(4)心理社会的な安定を促す活動」として、元子ども兵や性的暴力を受けた女性たちが安心して悩みを打ち明けたり、相談できるカウンセラーがグローブハウスⅢに着任し、2010 年度も引き続き、カウンセリングを行いました。

カウンセラーは元々パートナー団体 (GRAM) の支援を受けて自立した女性で、彼女自身も過去に性的暴力の被害を受けた経験があります。

そうした経験から自らがカウンセラーとして同じ境遇にあった女性をサポートしたいという思いを持ち、カウンセリングの勉強をして他の援助機関が提供するカウンセラー養成研修を修了しています。

現在は、彼女と GRAM 職員の 2 名体制でカウンセリングを行い、村々を訪問した際にも、相互扶助グループのメンバーからの様々な相談にのっています。